



国際文化学研究所「日本語教師養成サブコース」

〇沿革と概要

国立大学法人神戸大学における日本語教師養成は、2015年に大学院国際文化学研究科に設置された「日本語教師養成サブコース」が担当しています。サブコースは、これまで、内外において多くの日本語教師や日本語教育研究者を輩出してきました。2024年度には登録日本語教員養成機関・登録実践研修機関となり、2025年度より新制度での受講生を受け入れています。サブコースは、学術的専門性と高度なリサーチスキルを備えた日本語教育分野の次世代リーダーの養成を目指しています。

〇受講資格・定員

受講資格は国際文化学研究所の正規学生であることで、研究科の学生であれば、所属コースを問わず、副専攻（サブメジャー）として課程を受講することができます。定員は1学年12名で、定員を上回る希望者がいた場合は選考を実施しています。

〇課程修了要件

サブコース科目は必修科目・選択科目・実習科目の3種から構成されています。必修科目は、「レトリカル・コミュニケーション論特殊講義」「第二言語習得論特殊講義」「日本語教育方法論特殊講義」「日本語教育応用論特殊講義」「言語行動科学論特殊講義」「外国語教育内容論特殊講義Ⅱ（応用言語学）」「言語コミュニケーション論演習（教科書分析）」「外国語教育コンテンツ論演習（コーパス言語学）」の8科目（16単位）です。選択科

目は、16科目（2026年度入学生の場合）から5科目（10単位）以上を選択して履修します。これらに加え、実習科目として、「日本語教育実践演習」（2単位）の履修が必要です。

〇課程授業の一例

サブコース設置科目はすべて博士前期課程専門科目であるため、日本語学・日本語教育学研究の最先端の知見をふまえた指導が行われています。一例として、「言語コミュニケーション論演習」では、グループワークと個別ワークにより日本語教材の批判的分析とそれをふまえた教案設計を行います。「外国語教育コンテンツ論演習」では、日本語学習者コーパスの検索手法や統計的データ解析手法を学ぶことで科学的な言語教授の在り方を考えます。



授業風景：学生による報告発表

〇教壇実習

神戸大学は登録日本語教員養成機関および登録実践研修機関となっており、実践研修（教壇実習）は養成課程設置科目の1つとして、学内のグローバル教育センター（※2026年度より「グローバルエンゲージメントセンター」に改称）で行います。国籍・母語・専門分野を異にする世界中の大学生が集まる環境で日本語教員としての対応力を磨けるのが魅力です。



学生による実習風景 1



学生による実習風景 2

〇学習支援体制

サブコースには研究科内の様々なコースから学生が集まっていますので、コース生の親睦を深め、学習意欲を高めていただく目的で、年間3回程度、サブコースランチョンセミナーを開催しています。2025年度は、「海外で日本語を教える」「中国で日本語を教える」「応用試験受験とその先のキャリアを考える」というテーマでセミナーを開催し、好評を博しました。



ランチョンセミナーの様子

〇課程修了と進路

サブコース課程修了者には、修了書のほか、

神戸大学より公式のオープンバッジが与えられます。これは学習履歴とそこで得たスキルを電子的に証明するもので、世界標準規格のデジタル認証技術を使用しています。



サブコース修了を証明するオープンバッジ

過去の修了生の多くは、日本語教育の知見を備えた専門職業人として多くの分野で活躍しています。博士課程後期課程を経て国内外の大学に教員として就職する人、研究所等の研究員になる人、高校等の教諭になる人もいます。また、高度な日本語のスキルを活かして、留学生が内外の企業で活躍している例も多く見られます。さらに、国際交流基金（JF）や国際協力機構（JICA）の派遣制度で、諸外国で日本語指導の実践を積んでいる卒業生もいます。

〇神戸大学の養成課程について知るには

神戸大学日本語教師養成サブコースでは、公式のウェブサイト運営しています。サイトには、養成課程の内規のほか、修了生の状況や、履修生向けのイベントの情報なども記載されています。ぜひ一度ご覧ください。

<https://language.sakura.ne.jp/scweb>



■問い合わせ先
石川 慎一郎 教授
（サブコース運営委員会委員長）
iskwshin@kobe-u.ac.jp